

事務事業名	真岡インターチェンジ周辺土地区画整理事業				担当	産業環境部 企業誘致課 企業誘致係
政策名	E	地域と産業が調和する活力あるまちづくり			電話番号	0285-83-8706
施策名	03	工業の振興			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業	
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ
法令根拠	土地区画整理法第3条第4項					<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 年度～）
予算科目	7.インターチェンジ周辺 開発事業特別会計	1.インターチェンジ周辺 開発事業費	1.インターチェンジ周辺 開発事業費	1.インターチェンジ周辺 開発事業費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ H13 年度～ H22 年度）	
事業概要	事業主体：真岡市 施行面積128.5ha 地権者220名 計画分譲面積約65ha 施行期間H12～H22年度 総事業費89億円 計画人口800人 計画就業人口3350人 事業目的：北関東自動車道及び鬼怒テクノ通りの交差する地理的優位性を活かした都市基盤の整備（工業団地用地及び住宅用地の供給）。真岡インターチェンジ周辺開発事業は、区画整理事業と企業誘致事業（第5工業団地）から成り立っている。H10年度：区画整理事業調査、H11年：栃木県において基盤調査地区に決定H12年2月1日：都市計画決定、H13年5月25日：県事業計画決定、H14年9月：一部工事着手H15年3月：栃木県企業局と基本協定締結。立地企業確定後に造成を行なう、オーダーマイド造成を条件に参画H15年5月：第1回事業計画変更、H16年3月：第1回仮換地指定、H18年度より、真岡インターチェンジ 周辺開発事業を区画整理事業と企業誘致事業（第5工業団地）に区分けする。H19年5月第3回事業計画変更で、区画整理事業の事業費を110億円から96億円に削減、H21年1月に第4回事業計画変更、事業費89億円に。 平成21年6月に換地処分公告、11月精算金交付徴収完了、平成22年3月竣工式実施。平成23年度に、環境影響評価事後調査を終了。					

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 24年度実績 宅地造成、環境影響評価事後調査等 25年度計画 オーダーマイド工事	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
	名称	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
ア	仮換地指定面積		0				
イ	道路築造延長		0				
ウ	用地造成面積		0				
エ	建物移転戸数		0				
オ							
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 亀山、長田、西高間木のそれぞれ一部を含む施工区域に土地を所有する人。	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
	名称	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
ア	地域内戸数		431				
イ	地権者数		316				
ウ	施行面積		128.5	128.5	128.5		
エ							
オ							
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 施工区域内の生活の利便性（道路・下水道・ガス）の向上と住宅用地及び工業用地の確保を図る。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
	名称	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
ア	新規建設戸数（21年度換地処分時までの実績）		3				
イ	用地供給面積（21年度換地処分時までの実績）						
ウ							
エ							
オ							
④結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） 工業の振興が図られ、財政基盤が確立するとともに、雇用が創出され地域経済の活性化が図られる。 都市環境整備が図られる。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
	名称	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
ア	立地企業数		0	0	2		
イ	就業者数		81	233	225		
ウ							
エ							
オ							

(2) 総事業費の推移		単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	千円				
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	214,868	92,442	19,833	0
		一般財源	千円	3,800	25,782	0	0
	事業費計(A)	千円	218,668	118,224	19,833	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	5	3	2	0
		延べ業務時間	時間	9,130	5,478	800	0
		人件費計(B)	千円	37,031	23,380	3,394	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	255,699	141,604	23,227	0	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	平成2年度に北関東自動車道及び鬼怒テクノ通りの都市計画決定を受け地権者から沿線開発を求める声が高まった。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	当初、区画整理事業への賛同を渋る地権者が若干いたが、平成18年度までに地権者全員の賛同が得られたことにより、事業が円滑に進展し平成22年3月には竣工式を行った。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	議会及び地区内権利者からは早期実現の要望、自然を守る会からは、自然環境保全に配慮した開発の要望がある。

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 道路、上下水道等の公共施設の整備に伴い、「良好な市街地の形成」につながり、企業立地により「工業の振興」につながるため市の政策体系に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市街化区域の公共施設整備及び宅地供給事業であり、市が行うことは妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 区画整理事業として対象、意図が明確である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 事業が概ね完了したため向上の余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 事業が概ね完了したが、オーダーメイド工事が残っているため廃止・休止はできない。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない 企業誘致事業(第5工業団地)
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない 残りは、オーダーメイド工事のため、統合・連携ができる。
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 一部事業完了となり、必要最低限の人員で行っており、削減の余地はない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか？ (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 一部事業完了により削減の余地はない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 区画整理事業であるため、地権者に対しては公平な減歩負担となっている。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							